

稲作だより

第13号 稲わら腐熟編

令和6年10月11日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部
(最上総合支庁農業技術普及課) ☎0233-29-1333

稲わら腐熟促進で安定多収に

春先の「ワキ」は、初期生育を停滞させ、収量や品質の低下要因となっています。「ワキ」は田植え後に稲わらが急激に分解することで発生します。

例年、春先に足を踏み入れると気泡が激しく発生する圃場では、秋のうちに稲わらの腐熟を進めるため、以下のような対策を実施しましょう。

秋耕

秋耕は、稲わらと土壌表層を混和させることを目的に、**深さ 5cm 程度で浅く耕耘**します。耕耘が深過ぎると、春先に田んぼが乾きにくくなるので注意が必要です。

圃場の排水性が悪く、秋耕が困難な場合には、腐熟促進効果のある資材の散布を検討しましょう。

腐熟促進資材の施用

石灰窒素や発酵鶏糞の秋施用で、稲わらの腐熟が促進されます。腐熟には十分な地温が必要なので、**収穫後できるだけ早く(遅くとも10月下旬まで)に散布**しましょう。

ただし、**石灰窒素は、玄米粗タンパク質含有率が高まる場合があるので、連年の施用や、地力の高い圃場での使用には注意**が必要です。

表 腐熟促進資材の施用量の目安

資材	施用量の目安	資材費(参考)
石灰窒素	10kg/10a (「つや姫」、「雪若丸」)	2,600 円/10a
発酵鶏ふん	100kg/10a	1,200 円/10a

LINE 公式アカウント 「最上ベスト稲作」
登録者増加中 (無料) !

登録用QR

